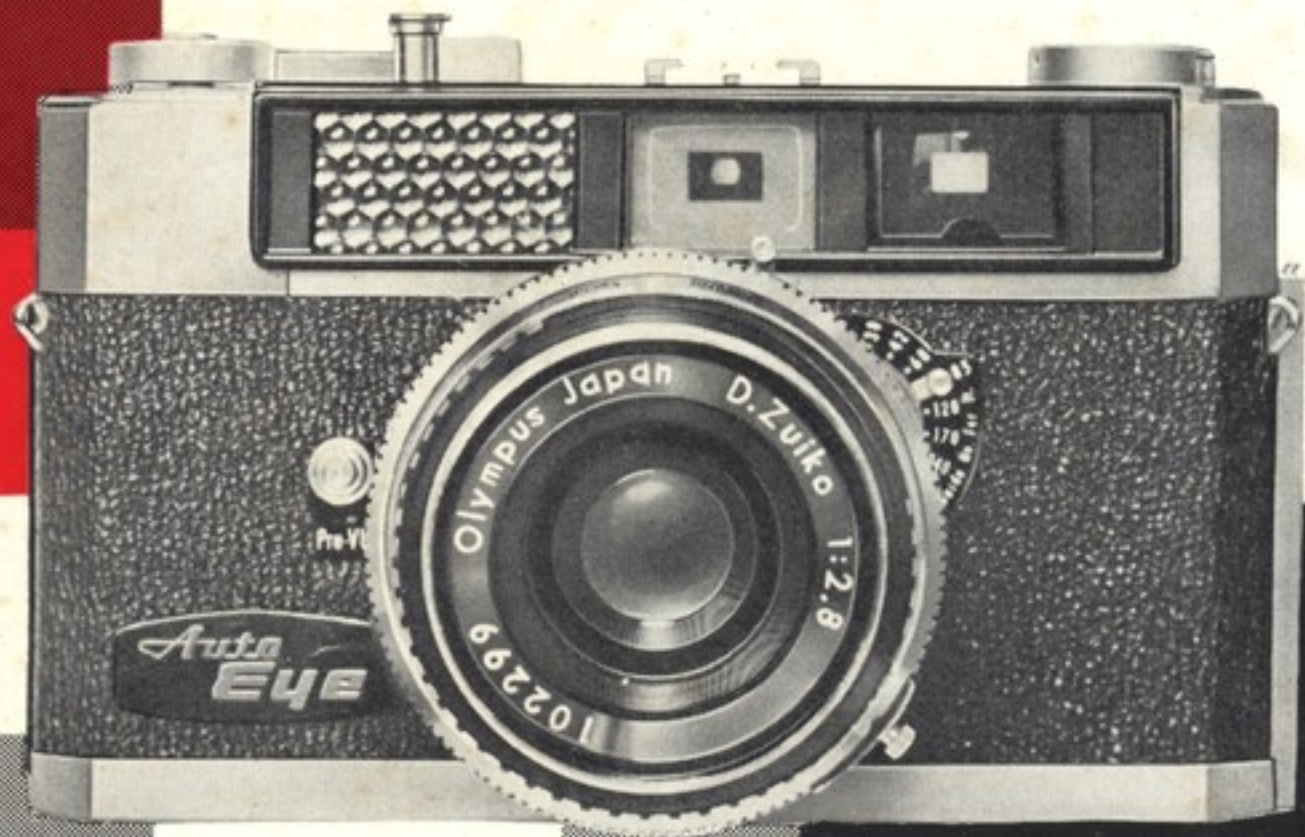


Auto EYE

說 明 書

OLYMPUS





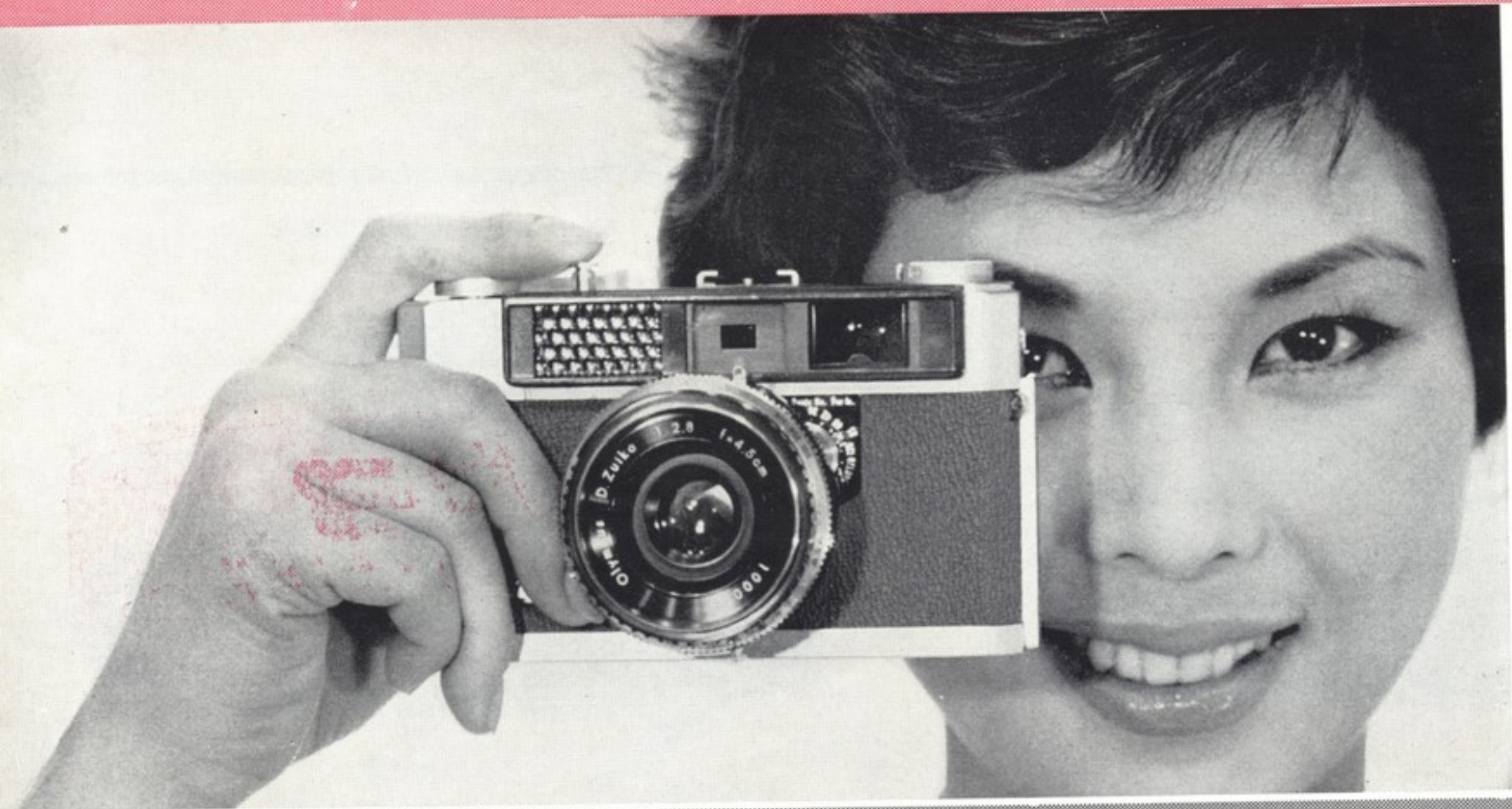
オリンパスオートアイは今までのカメラの常識を根本からひっくり返してしまっただカメラです。ひとこと言えば Universal Automatic Diaphragm (万能自動絞り) を持った最高の Electric Eye Camera です。

スマートで軽快なデザイン、今までのどんなカメラにもなかった世界最高の E. E. 機構——

初めての方も、熟練した方も——どなたが使っても素晴らしい写真がとれる E. E. カメラがオリンパスオートアイです。

先づ説明書でカメラのすべてを知って下さい。

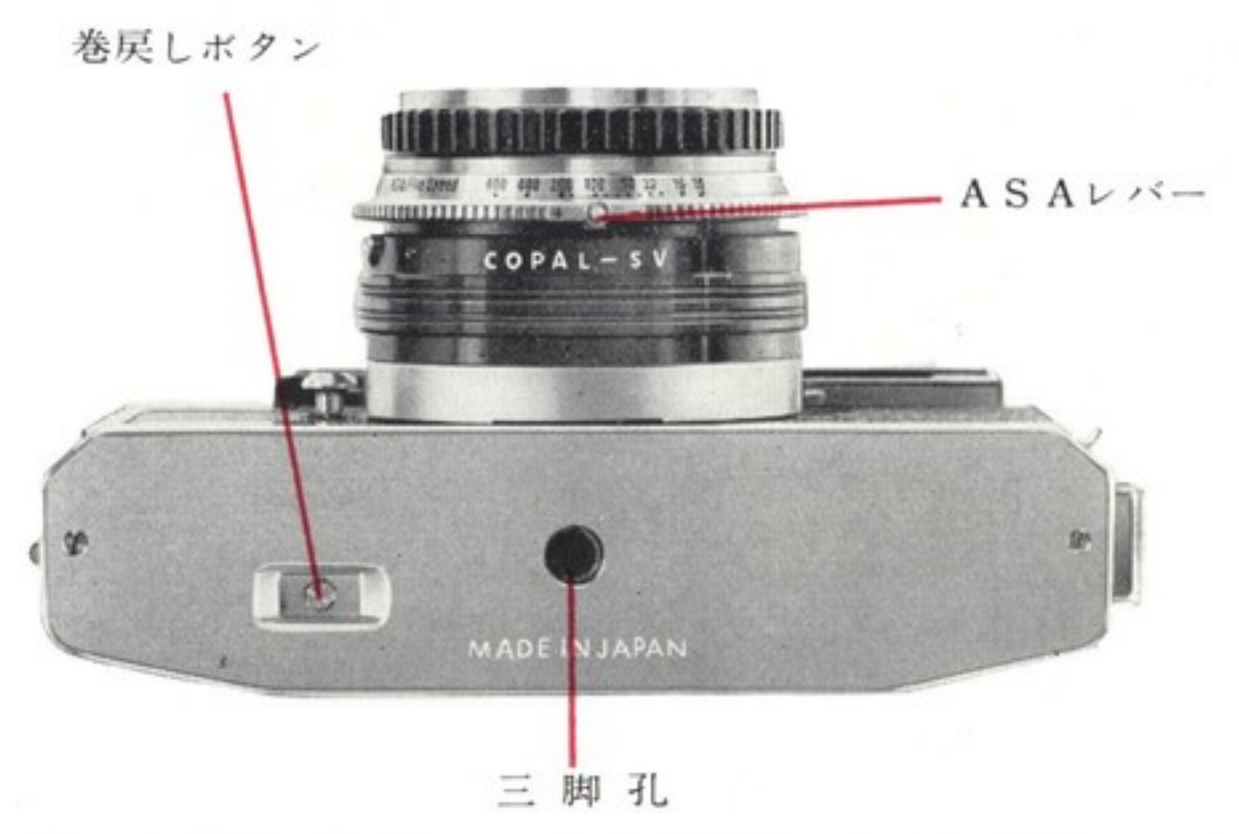
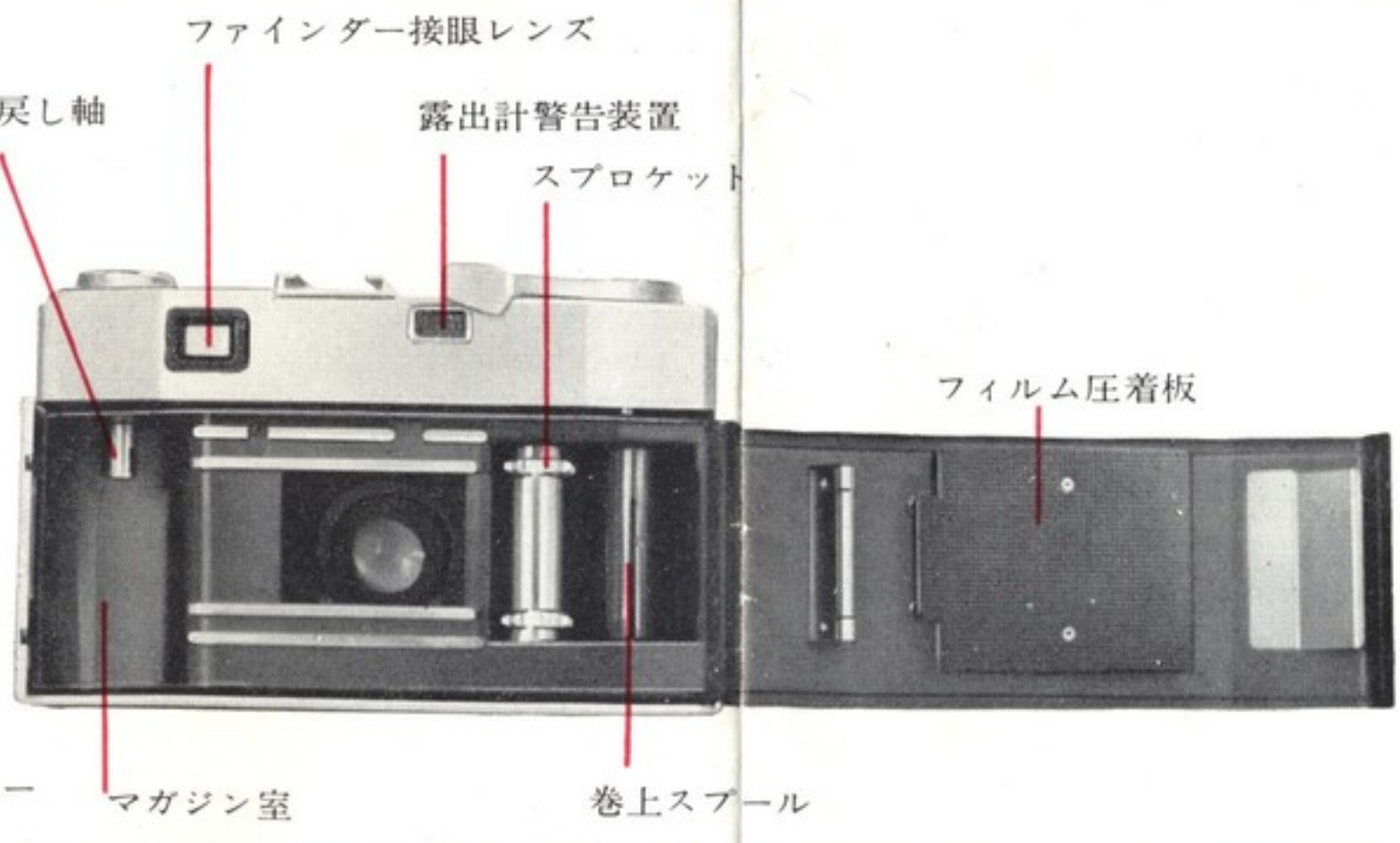
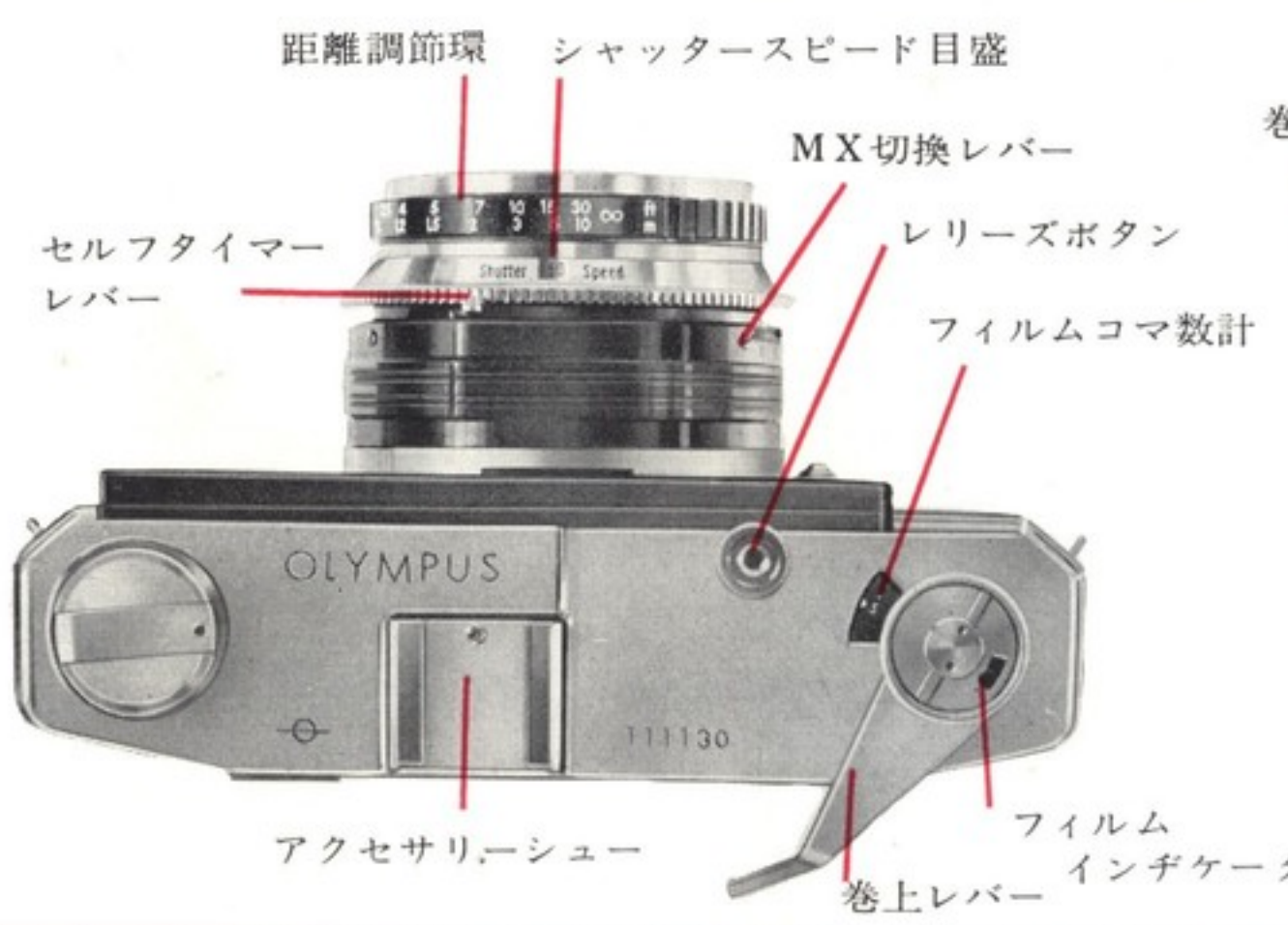
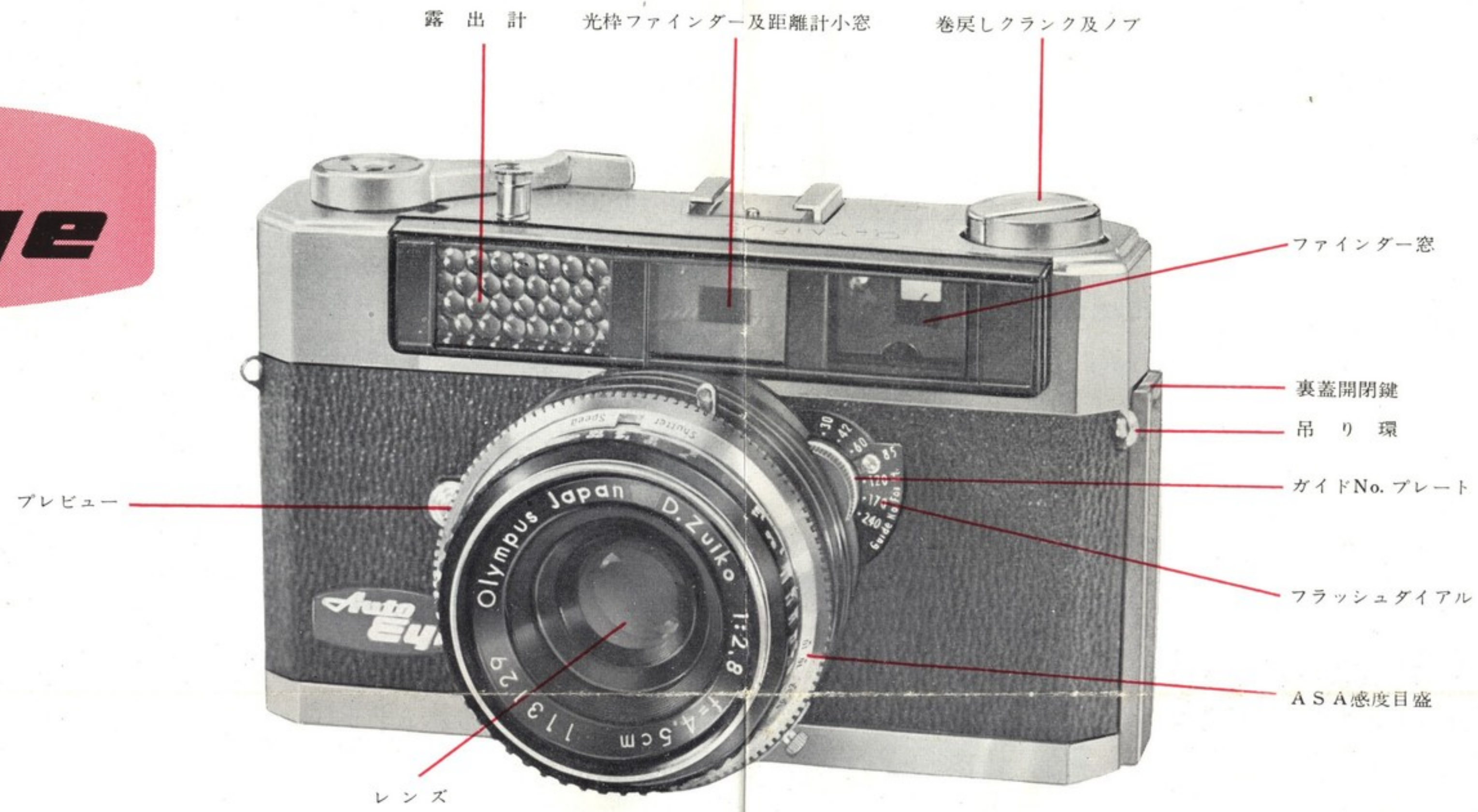
それが傑作を生むための最短距離なのですから。



主要諸元

レンズ Dズイコー F2.8 f=45mm
シャッター コバル特殊SV.
B, 1, 2, 4, 8, 15, 30, 60, 125,
250, 500
クリックストップ (60目盛赤表
示)
セルフタイマー内蔵, MX フルシ
ンクロ
フィルム感度目盛ASA 10, 16,
(25) 32, (40) 50, (64) (80) 100,
(160) 200, 400, 800
焦点調節 二重像合致式一眼連動距離計によ
る自動焦点調節式
距離目盛 1, 1.2, 1.5, 2, 3, 5, 10, ∞ (m)
3.5, 4, 5, 7, 10, 15, 30, ∞ (ft.)
5m クリックストップによる常焦
点目盛表表示

ファインダー ゴールデンブライトフレーム,
パララックス自動匡正(0.7倍)
露出計 特殊設計による E. E. メーター
測定範囲 LV 17~8 (ASA100)
露出計警告装置付
巻上 引出し角 25° 巻上角 120°
ワンショットレバーによるセルフ
コッキング, 巻止め, 二重露出防
止, 空巻防止, コマ数計自動復元式
巻戻し クランク巻戻し, ボタンセット式
フィルム離脱表示
その他 フラッシュマチック装置
プレビュー
裏蓋開閉蝶番式
三脚孔 ¼" JIS 小ねじ
大きさ 134×81×77 (mm)
重量 650 gr.



オリンパス オート・アイ

1. フィルムを入れる。
2. ASAレバーを合わせる。
3. フィルムを巻上げる。
4. ピントを合わせる。

そしてリリース釦を押しさえすれば必ず正しい露出、美しい写真が出来ます。余分な計算は何一つする必要がなく、初めての方でも綺麗な写真がとれるのです。

では順を追って簡単に説明してみます。

魔法の眼とは・・・

人間の眼には明るさに応じて瞳の大きさが変化する調整作用があります。カメラも明るさによってレンズの絞りを変化させなくては美しい写真ができません。この調節は人為的にするのが普通ですが、オリンパス・オート・アイにはこれをすべて自動的に行なう機構が備っています。これが“魔法の眼”——エレクトリック・アイ (E. E.)——と呼ばれている自動絞り機構です。リリースボタンを押すだけでこの E. E. 機構が働いてくれます。

フィルムの入れ方

パトローネかオリンパスマガジンP型に入れた35mmフィルムを使います。

1. 裏蓋開閉鍵を引き上げて裏蓋を開きます。
2. フィルムの先をスプールの溝に差し込みます。スプールは空転しますから指先で溝を差し込み易いように直しておくとう便利です。
3. 巻戻しノブを引出し、パトローネをマガジン室に収め、ノブを左右に小刻みに廻しながら押し込むとカチリと入ります。
4. 巻戻しクランクを起しパトローネを抑えて、クランクを矢印方向に静かに廻しフィルムのたるみをとります。パーフォレーション（フィルムの両側の孔）がスプロケットの歯の一つにかかるようにして裏蓋を閉じます。



ASAレバーのセット

フィルムを入れたらASAレバーを合わせましょう。

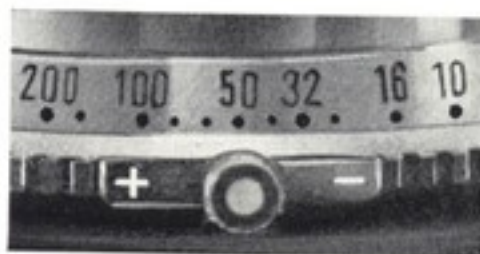
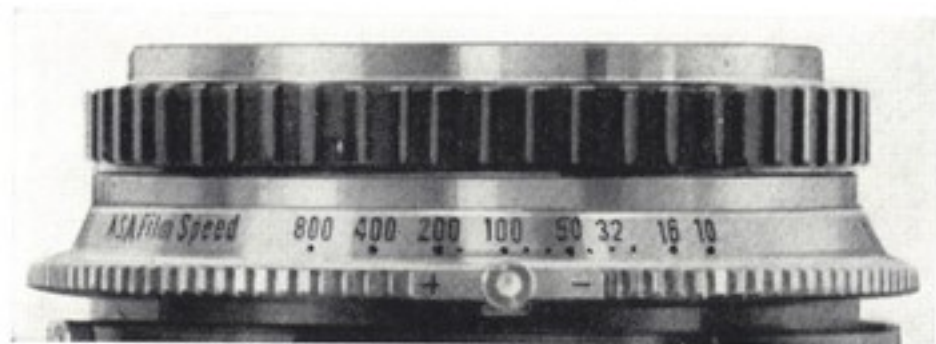
つまみを引くようにしますとレバーは左右いづれえも移動します。つまみの下の部分が使用フィルムのASA感度指数に合うようにセットして下さい。

フィルターを使うとき

2倍のフィルターを使うときは+印を使用フィルムのASA感度指数と等しい数字の処に合わせます。ブースター併用のときもこの+印に合せて下さい。

Aセット

フラッシュダイヤルはオート(A)になっているかどうか確かめて下さい。Aにセットされていないと完全自動撮影は出来ません。



ASA目盛りは次の順に目盛っていますが括弧内の数字は・印で代用してあります。

10, 16, (25), 32, (40), 50, (64), (80), 100, (160), 200, 400, 800



フィルム巻上げ (オートマテック・ウィングシステム)

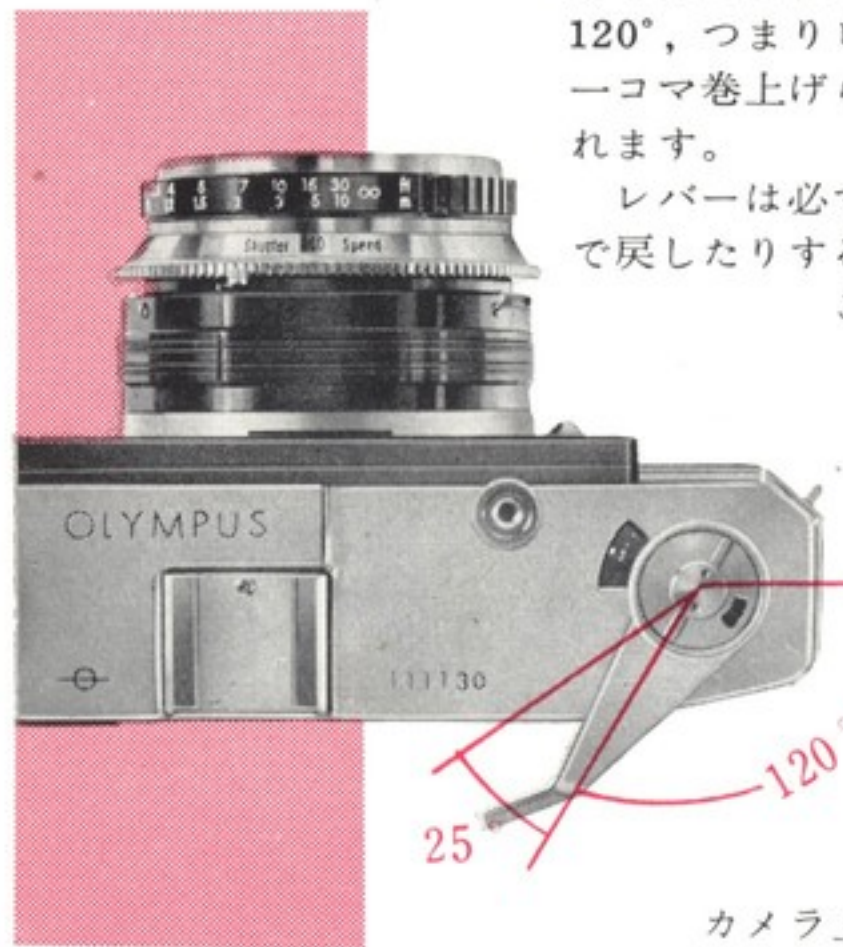
レバーは 25° の予備引出角度をもっています。撮影中はここまで引出しておくのが便利です。ここから 120° 、つまりレバーの止る処まで廻すとフィルムは一コマ巻上げられてシャッターも一緒にチャージされます。

レバーは必ず止るところまで廻して下さい。途中で戻したりすると故障のもとになります。

このカメラは二重露出は出来ません。

フィルムコマ数計の窓の中央にある赤い▼印はスタート(S)を指しています。レバーを止るところまで巻上げてリリース釦を押し、2度この空写しをして下さい。次の3回目の巻上げで枚数計は1を指しますからここから最初の撮影が始まります。このとき巻戻しノブが逆に回転していればフィルムが送られていることがわかります。

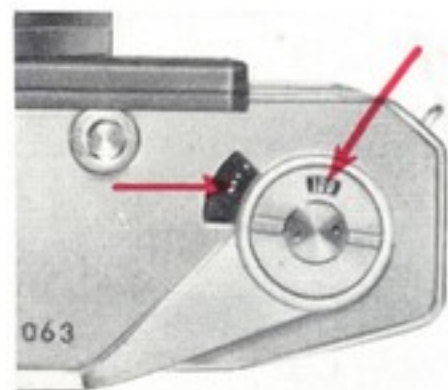
カメラ上部の⊖印は距離測定基準線です。この印の真下にフィルム面があります。実測のとき被写体との距離はここから測ります。



フィルム インジケーター

使用フィルムのASA感度を示しておくのがフィルムインジケーターです。つまみを廻して必ず使用フィルムのASA感度指数に合わせておいて下さい。フィルムの説明書にそのフィルムのASA感度が示されていますからおしらべになって下さい。

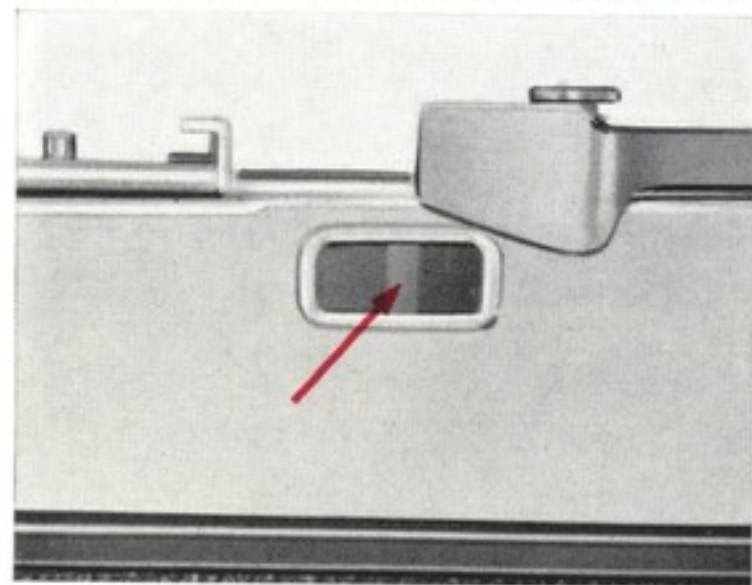
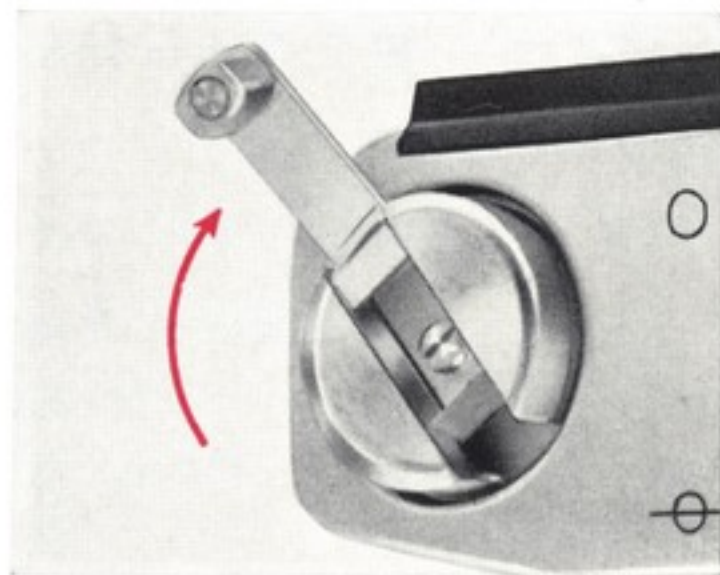
SSフィルムなら100に合わせておきます。



フィルムの巻戻し

カメラ底部の巻戻しボタンを押し込みます。巻戻しクランクを起して矢印の方向に廻転しますとフィルムは巻取られます。このとき巻戻しボタンにある点はフィルムの巻戻しにつれて廻転しています。フィルムがスプロケットから脱れると同時にこの点は動かなくなりますからそこで裏蓋を開けてフィルムを取り出して下さい。

巻戻しボタンはレバーを1回巻上げれば自動的に復元します。



露出計警告装置

あまり暗いところでは自動絞りが動きません。

光線が少なく暗いとお感じになったときはカメラ背面の露出計警告装置をみて下さい。ここに黄色い線が出ているときは自動撮影は出来ませんから注意して下さい。

Dズイコー F 2.8 f = 45mm

ここでちょっとレンズについて説明しておきましょう。昭和12年に生産を開始して以来、ズイコーレンズは世界的に有名なレンズとなっています。

オート・アイのDズイコー F 2.8 はレンズの性能を最も安定的に発揮させるテッサータイプによって設計されています。このDズイコーの鋭さを生かして美しい写真を楽しんで下さい。



ピントの合せ方

明るくて広い視野の中に実際に写る範囲をはっきりと示して黄金の枠が浮んで見えます。又中心部には明るい矩形の部分があって被写体が二重に写って見えます。

距離調節環を左右に回して中心の二重像が合致したところがレンズのピントの合ったところ
です。

黄金の枠は自動的に左右に動いて視差（パララックス）を匡正します。レンズとファインダーの位置が異なるため実際に写る被写体はファインダーを通して見た範囲より少しずれていて、この差をパララックスといいます。つまりレンズを通して写るものの範囲を黄金の枠が決定してくれる訳です。尚至近距離（1 m, 3.5ft.）撮影のときは枠の上部に左右から突起が出ていますからその突起の延長線を枠の上辺と考えて構図をきめて下さい。

常焦点

距離調節環の5 mはクリックストップの赤印になっていて常焦点を意味しています。常時この位置にしておくとしり8以上の場合には大抵の撮影はその都度距離を合わせなくてもピントが合ってしまう。こういう写し方を常焦点撮影といいます。

ここまでの準備が出来たらいよいよ撮影です。

自動絞りによる撮影法

写真のようにカメラを構え右手の中指でプレビューを矢印の方へ押し下げて下さい。ファインダーの下部中央に赤い矢印が出ていたのが移動して白い数字になります。

数字が止ったとき右手の人差し指でリリースボタンを押すとシャッターが切れて魔法の眼の自動的な働きによる適正露出の美しい写真がとれます。

シャッターを切ったときファインダーに見えていた白い数字はそのときの撮影に使われた絞りの数値を示しています。

又、プレビューを押したときリリースボタンも一段下ったことがおわかりと思います。ですからリリースボタンだけでファインダー内の数字の移動を確かめることもできますが不用意に押しすぎてシャッターを切ってしまうことも起りますからプレビューを使って下さい。

このような自動絞りの撮影で次のようなことが起こることがあります。

○プレビューを押してもファインダー内の赤い矢印が移動しない。

○プレビューを押してもファインダー内の赤い矢印が移動して再び逆の赤い矢印のところで止ってしまう。

こんな時にはプレビューを押し下げたままでシャッタースピードダイヤルを赤い矢印の指す方向えまわして下さい。ダイヤルの回転につれて白い数字が出て来ますからそこでリリースボ





タンを押してシャッターを切って下さい。

シャッタースピードダイヤルはクリックストップになっていますから必ずクリックでピタリと止るところで使用して下さい。中間を使うとシャッターがこわれます。

このようにシャッタースピードや絞りについて考えなくても美しい写真のとれるのがオートアイです。

○スピードダイヤルは赤で60 ASA10のカラーフィルムを使うときは60にセットしておけば日中の撮影でプレビューボタン

を押したときファインダー内に矢印が出てしまうことは先ずありません。SS級の黒白フィルムの際にはシャッタースピードを125に合せておくと便利です。

しかし次のような撮影方法も可能です。

○シャッタースピードに希望のあるときは

予め希望のスピードにセットしておきます。そしてプレビューを押してファインダー内に赤い矢印が出なければ撮影して下さい。

○絞りに希望のあるときは

プレビューを押してファインダーをのぞきながらスピードダイヤルを左右に廻しますと絞りの数字が出てきますから希望の数字が出たところで回転をストップして撮影して下さい。

ここまでの説明を充分お読み頂ければ一般撮影に於いて常に露出の適正な綺麗な写真がとれることをオリンパスオート・アイがお約束します。

オリンパス オート・アイの特殊撮影法

1. シャッタースピードと絞りの自由な撰択

○カメラに経験のある方は、被写体の動きや光線状態によって予め希望するシャッタースピードにセットしておいて下さい。

撮影のとき若しそのスピードが不適當であったならファインダーに赤い矢印が出ます。

このときは前出の説明通りスピードダイヤルを回転すれば希望のスピードに最も近いスピードを使用して撮影することができます。

○プレビューを操作することでファインダーに表れる絞り数値に希望の絞りが出るようにスピードダイヤルの回転で求めます。焦点深度等に対する考慮から絞りを優先的に決定しておきたいときなどに利用して下さい。

2. バルブ (B), タイム (T), セルフタイマー撮影法

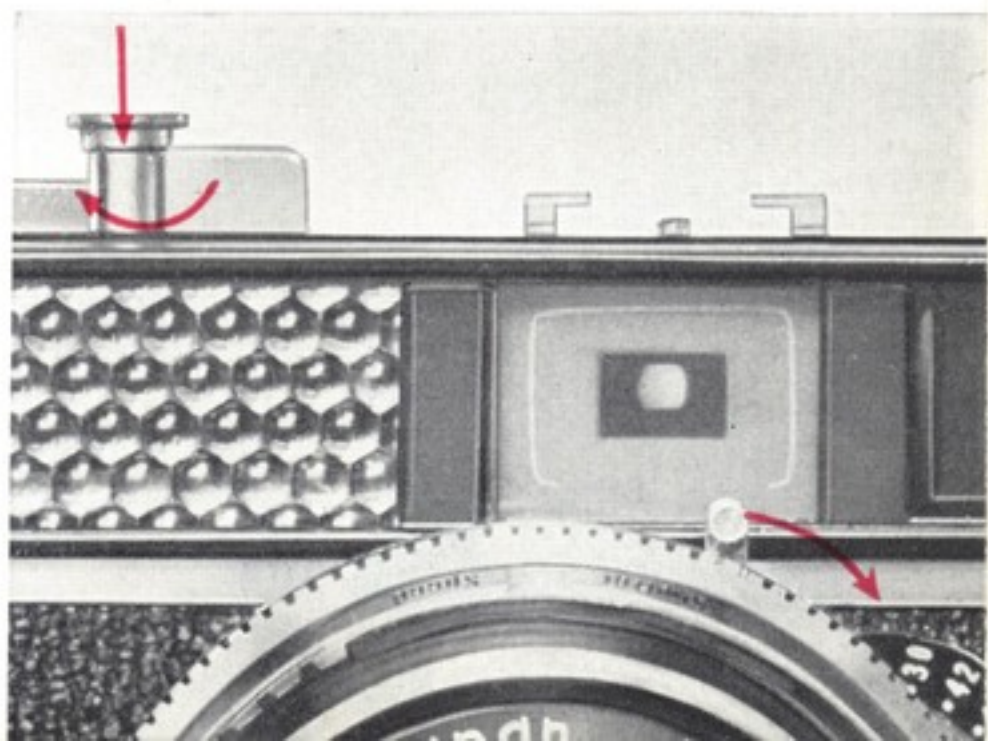
シャッタースピードダイヤル B を使用しますとリリースボタンを押している間中、シャッターの羽根は開いています。これがバルブ露出です。

バルブ露出の状態では指先でボタン頭部を回転しますとボタンは指を放しても凹んだまま戻ってきません。タイム露出にはこの方法を利用して下さい。

セルフタイマーはバルブ (B) 以外のスピードのとき使用出来ます。

1. シンクロ接点切換レバーを X にする。
2. セルフタイマーレバーを写真矢印の方向に止る処までもってきてセットする。

リリースボタンを押してセルフタイマーが作動しはじめたらボタン頭部を操作して、リリースボタンの復元を阻止します。8 秒後にはシャッターが切れて適正露出の写真が得られます。



3. 特殊な光線状態に対応する撮影法

一般に完全自動カメラでは次のようなことが起ります。

- a) 逆光線撮影の場合、露出不足になる。
- b) 広い空や海をバックにした場合、露出不足になる。
- c) 暗い処から明るい風景を写すと風景は露出過度になる。

これらの欠点をオリンパスオートアイでは次のように解決しています。

○普通の撮影



○逆光撮影

被写体に近づいて蔭の部分でプレビューを押してそのまま撮影位置に戻って写します。



a), b) の場合 被写体の蔭の部分にカメラを近づけプレビューを押しそのまま撮影位置に戻りリリースボタンを押して下さい。

被写体に近づけない場合

ASAレバーのセット位置を“十”に合せて撮影して下さい。

c) の場合 ASAレバーのセット位置を“一”に合せて撮影して下さい。

○広い空を背景にした撮影

ASAレバーを“十”にセットして写します。



○海辺の撮影

ASAレバーを“十”にセットして写します。



○室内から窓外の明るい風景を写す場合

ASAレバーを“一”にセットして写します。



4. フラッシュマチック装置の使用法

ガイドナンバープレートとフラッシュダイヤルによって構成されるフラッシュマチック装置はフラッシュ撮影のときにのみAセットを解除して使用します。

フラッシュダイヤルは中央突起部を爪で押し下げ、指の腹で廻しますとAに続いて30, 20, 15, 10, 7, 5, 4, 3.5の順にフィートによる距離目盛りが刻まれていることがわかります。

- (1) 被写体にピントを合わせ、そのときの距離を距離調節環上のフィート目盛りで読みとります。(例えば15ft. とします)
- (2) フラッシュダイヤルのAセットを解除して(1)で読みとった距離をダイヤル上の距離目盛りで確認して使用バルブのフィート用ガイドナンバーに合致させます。つまりガイドナンバープレート上のナンバーにフラッシュダイヤル上のある距離目盛りが合致していてその目盛りは距離調節環上のピントの合ったときの距離目盛りと同じでなくてはなりません。(例えば15ft. でバルブのガイドナンバー170なら写真のようになります)

こうしておいてあとは一般撮影と同様に使用して下さい。プレビューを押しすすめれば15ft. No. 70のときの適正な絞りとなります。

但し、ストロボライトを使うときは接点切換レバーはX

M級のバルブを使うときは接点切換レバーはM

になっていないとバルブは発光しても写真が真黒でなにも写らないことがあります。

Mにしたままストロボライトを使うと何も写りません。

XにしたままM級のバルブを使うと1~30以外のスピードでは写真が写りませんから注意して下さい。



5. 露出に対する作意

ハイキーやローキーのネガが欲しいといったように作画意図から故意に露出の加減をしたい時にはASAレバーのセット位置を希望により+又は-に移動してから撮影して下さい。

6. ASAレバーによる手動絞り

夜間撮影などで露出計が働かず、警告装置に黄色いスリットが出ているとき、予め希望のスピードにセットしておいてからプレビューを押します。

そのままの状態ではASAレバーを操作してその位置をかえるとファインダーにいろいろの絞り数値が表れますから自由に撰択して下さい。

バルブ露出で絞りを決めるときもこの方法が利用出来ます。



オリンパス オート・アイ焦点深度表 (Dズイコー F2.8 f=45mm)

許容するボケの直径を $\frac{d}{1000}$ とした場合 (d=画面の対角線長)

距離 目盛 絞り	焦点を合せた距離 (メートル)							
	1	1.2	1.5	2	3	5	10	∞
2.8	0.95 より 1.05 まで	1.13 より 1.28 りで	1.39 より 1.63 まで	1.80 より 2.24 まで	2.57 より 3.61 りで	3.89 より 7.02 まで	6.33 より 24.12 まで	16.96 より ∞ まで
4	0.93 1.08	1.10 1.32	1.35 1.69	1.73 2.37	2.42 3.96	3.55 8.50	5.47 ∞	12.63 ∞
5.6	0.92 1.11	1.07 1.37	1.29 1.78	1.64 2.56	2.25 4.54	3.19 11.86	4.64 ∞	8.52 ∞
8	0.87 1.17	1.02 1.46	1.22 1.95	1.53 2.92	2.03 5.85	2.76 29.36	3.78 ∞	5.99 ∞
11	0.84 1.25	0.97 1.59	1.15 2.20	1.42 3.55	1.82 9.18	2.37 ∞	3.08 ∞	4.35 ∞
16	0.78 1.41	0.89 1.88	1.04 2.82	1.24 5.55	1.55 ∞	1.93 ∞	2.36 ∞	3.04 ∞
22	0.72 1.68	0.82 2.41	0.93 4.25	1.09 17.97	1.32 ∞	1.58 ∞	1.85 ∞	2.23 ∞

アクセサリー

- フィルター UV, Y2, O1, スカイライトを用意しております。
各 ¥ 350.
- フィルター枠 フィルターを一枚ずつ挿入して完全にカメラにねじ込むための枠です。
¥ 250.
- フィルターセット フィルター枠とUV, Y2 をセットにしたものです。
¥ 950.

オリンパス・サービス・ステーション所在地

東 京	東京都渋谷区幡ヶ谷 2の43	オリンパス光学工業(株)本社内	電話 (371) 5151
	東京都中央区銀座東1の2	オリンパス光学工業(株)銀座営業所内	電話 (535) 2461
	東京都千代田区神田錦町1の3	オリンパス商事株式会社本社内	電話 (291) 1721
名 古 屋	名古屋市中区南伊勢町1の8	オリンパス商事株式会社名古屋営業所内	電話 (24) 5962
大 阪	大阪市南区安堂寺橋通り2の32	オリンパス商事株式会社大阪支店内	電話 (26) 6071
九 州	福岡市馬場新町68-5	オリンパス商事株式会社九州営業所内	電話 (3) 5356
北 海 道	札幌市南1条西3	札幌ビル5階 オリンパス商事株式会社札幌営業所内	電話 (5) 3325

貴方のカメラNo. を控えておきましょう

B No.

L No.

OLYMPUS
TOKYO

オリンパス光学工業株式会社

36.4.10 M